

# 小噺 露天風呂（夢の噺）

心地よい露天風呂に時間を忘れ、夢見心地で浸かっていた。

白濁の硫黄の香り芳しく、熱からずぬるからず。辺りの風景は、大自然直中の理想郷。その上、誰もいなく貸し切り状態。それにしても静かだ。心地よい。永遠に続けと。

そんな静かで心地よい時間も束の間、4～5人の野郎が大声を張り上げながら、ドカドカ入ってきた。ム・ム・ム、なんとパンツはいたまま。ああ。そのまま湯舟に。「おいコラ」と声を荒げそうになったところを思いとどまり、いそいそと隅っこに退散。「多勢に無勢」逆ギレされ、袋叩きならぬこの風呂の底に沈められるのだけは避けたい。

それにしても声が大きすぎる。聞き耳を立てているわけではないが、自然と耳に入ってくる。何々、専門用語が飛び交ってよく分からんが、「A I」という断片は、ハッキリと聞き取れる。A I 関連会社の同僚なのか。そうなのか、そうなんだ。

「A I 関連」「A I 関連」「A I 関連」・・・ふむふむ「ハイテク産業」か。あつ、そうか。だから「パンツはいてく産業」なのか。なーるほど。納得。

それにしても声が大きすぎる。聞き耳を立てているわけではないが、自然と耳に入ってくる。何々、年収8桁？。耳を疑うが、飛ぶ鳥落とす勢いのA I 関連産業だから、当然と言えば当然。自分の住んでる世界と違う人々。あり得るんだろう。

他人と自分を比較することが、いいことなのかそうではないのか分からないが、あっちが8桁、こっちは6桁に近い7桁。「儂（はかな）い稼ぎ」で情けない。「挫けず、焦らず、悪いなりにその時点の最善を尽くす。それが運命」と言い聞かす。「儂（はかな）い稼ぎ」「儂（はかな）い稼ぎ」「儂（はかな）い稼ぎ」・・・あつ、そうか。俺、「パンツはかない」から「儂（はかな）い稼ぎ」なんだ。だけど、入浴する時、「パンツはかない」がマナー。俺、はかない。

◇ G o o g l e 検索「公衆浴場 マナー」より抜粋・引用 ◇

- ・裸で入浴：下着を含め、すべての衣類を脱ぎます。
- ・かけ湯・身を清める：湯船に入る前に、洗い場で体を洗い流します。
- ・湯船：タオルは湯船に入れない（湯船のフチや頭の上へ）。
- ・会話：大声での会話や歌唱は控え、静かに利用します。
- ・スマホ：脱衣所・浴室でのスマホ使用は盗撮などのリスクがあるため禁止です。